作物名：ねぎ
病害虫名：シロイチモジヨトウ（学名：*Spodoptera exigua*）

写真１ ねぎの被害葉
（食害部分が白化し、一部は折れている）

写真２ ねぎの被害葉
（葉身内部に虫糞がみられる）

１　被害の特徴と診断のポイント

- ふ化幼虫が、葉身内に食入し表皮を残して葉肉を食害する。そのため、食害部分が白化して折れる。
- 3齢幼虫までは主に葉身内を食害することから、葉身内の底部に虫糞が堆積する。そのため、収穫・調製作業時に虫糞を除去する必要が生じる。

２　生態

- シロイチモジヨトウは、ねぎを始め、野菜、花き、大豆など、多くの農作物を加害する広食性害虫である。
- 成虫は、葉身の中央～先端部近くに、灰白～灰褐色の鱗毛で覆われた卵塊を産卵する。
- 4齢幼虫以降は葉身の外側に出て活動する個体が多くなり、5齢幼虫を経て土中で蛹になる。
- 年間4～5世代程度発生する。
- シロイチモジヨトウは飛来性害虫で、長距離を移動することが知られている。
- 宮城県では、5月頃からフェロモントラップに成虫が誘殺されるが、主に8月下旬以降に発生が増加する。ねぎの食害も、8月下旬以降から目立つ傾向にある。

３　防除方法

- 卵塊やふ化直後の幼虫の集団を早期に見つけ、捕殺する。
- 被害残さが発生源となるため、ほ場から持ち出して適切に処分する。
- 中齢以降になると薬剤が効きにくくなるため、若齢幼虫のうちに薬剤散布を行うよう努める。
- 葉身内に食入後は、幼虫に薬液を直接散布することが困難となる。
- 交信かく乱剤も利用できるが、広範囲な地域で使用することが望ましい。

４　出典

(1) 参考文献

- インターネット版　日本農業害虫事典（全国農村教育協会）
- 農業総覧原色病害虫診断防除編第3-②巻（農山漁村文化協会）

(2) 写真

- 宮城県病害虫防除所撮影

写真3 ねぎ葉内部のシロイチモジヨトウ幼虫

写真4 ねぎ葉表面を食害する
シロイチモジヨトウ幼虫

写真5 シロイチモジヨトウ成虫

（令和7年6月作成）